

世界文化遺産登録に向けて!

佐渡金銀山

江戸時代初期に相川金銀山の開発が本格化すると、佐渡国は徳川幕府の直轄地となりました。奉行所を中心とした相川地区は、金銀の採掘が行われてきた約400年の歴史の中で様々な遺産が残っています。史跡の見学を通して、金銀山が世界に与えた影響を垣間見ることが出来ます。また職業別に配置された計画的なまちづくりが行われ、今も鉱山と関係する建物が多く残されています。まち並みの保全活動も住民により行われています。

学習のわらい



1 日本の宝である佐渡金銀山を見学して価値を知り、日本の歴史と照らし合わせて学ぶ。

2 金銀山とともに繁栄してきた相川地区のまち並みを散策しながら学び、発見する。



黄金の国
ジパングの
象徴!



活動1

所要時間 40分

佐渡金銀山の価値や魅力を伝える施設

きらりうむ佐渡は佐渡金銀山の玄関口として、現地を訪れるための情報発信拠点施設です。施設内では、佐渡金銀山の魅力や価値を多様な映像手法や金銀山歴史絵巻等で分かりやすく紹介します。また、ガイドマップやガイドアプリを活用し、史跡やまち歩きの現地情報を提供します。



活動2

所要時間 1~2時間

佐渡金山や周辺の鉱山遺跡の見学

相川金銀山は、1601年(慶長6年)鶴子銀山の山師3人によって本格的な開発が始まり、1989年3月31日までの約400年間で、金78トン、銀2,330トンを産出した、日本最大の金銀山でした(平成初期まで)。このように、江戸時代から平成元年まで操業が続けられた佐渡金銀山には、国内の鉱山ではもはや見ることのできない多くの史跡や建物が残されています。



活動3

所要時間 2時間

相川ふれあいガイドとまち並み探訪

相川金銀山の発見後、徳川幕府の命により着任した佐渡代官の久保長安は佐渡奉行所を中心としたまちづくりを行いました。大工町、京町、八百屋町、味噌屋町、材木町…職業ごとに町をつくり、職人たちを住まわせました。計画的なまちづくりの様子は、今もその名残があります。江戸時代の雰囲気が味わえるまち並みを散策してみませんか。



お問い合わせ



佐渡観光交流機構
〒952-0011 新潟県佐渡市両津夷353(両津港佐渡汽船ターミナル2F)
TEL. 0259-58-7285

佐渡金銀山ここがすごい

平安時代に砂金採取が行われたと伝わる西三川砂金山の開発以降、約1000年間に渡り金を産出してきた佐渡。それぞれの時代の鉱山技術を示す遺跡や建物が今でも残っています。佐渡金銀山で生産された金銀は国内の経済を支えるとともに、世界の貿易に大きな役割を果たしました。金銀山が繁栄したことで、佐渡に多くの文化や芸能が生まれ、今も受け継がれています。(左の画像は北沢浮遊選鉱場。)

